

東京都知事選挙  
過去の経緯&雑感

比較

候補者名	年齢	当選	支援団体	得票数
小池百合子	64	◎	無所属	2,912,628
増田 寛也	64		自民党・公明党	1,793,453
鳥越俊太郎	76		無所属	1,346,103

去る7月31日に行われた東京都知事選挙を追ってみました。

不祥事などによる任期途中での都知事の辞職が重なり、また1回の選挙に約50億円かかるとも言われている中、都民の負担も大変であると思うが、さすがに「首都東京」、金が余っているのだらう。

今回は21人の立候補者の内、有力候補者が3人。野党連合が推す鳥越氏、自民党・公明党が公認する増田氏、無所属で立候補した小池氏。小池氏が自民党の公認を得られないと分かって即座に無所属で立候補したのは凄い決断である。

若い時に海外で積んだ様々な経験が彼女の身体の中に染み込んでいる。この体験から来る勇気が有権者の判断要素になったのだ。参院選の後でもあり、テレビメディアが派手に取り上げたのも幸いしている。二人の著名な男性知事が不祥事で辞任した後でもあり、クリーンなイメージの女性候補が注目されたのも事実であるが、政党に推された官僚的な増田氏や評論家的な鳥越氏では到底太刀打ちできない何かを持っている小池氏の圧勝は当然の出来事だと言えよう。

知識の量が知事の資質を決めるものではない。問題・課題意識と解決手法、実行力だ。東京一極集中の弊害が問題視されている昨今、東京都民の利益を優先するだけの知事であって欲しくないはない。「組織で、女性など少数派が30%を超えると変革が起きる」との説を聞いたことがある。グローバル化が進む世界で女性の指導者が活躍し始めた。G7では英国のメイ首相、独のメルケル首相、11月には米のクリントン氏(?)。主要都市の首長を見ても東京は小池知事、パリはイダルゴ市長、ローマはラツジ市長、ワシントンはバウザー市長……

巨大になり過ぎた東京都、都議会も官僚主義的になっていないか? シガラミの少ない女性首長が改革を進めて行って欲しい。

今回、国政政党が地方自治体の首長や議会を系列化するのには地方分権の趣旨に反していると感じた次第。



投開票日	候補者名	年齢	支援団体	得票数	投票率	立候補者数
2016年 7月31日	小池百合子	64	無所属	2,912,628	59.73%	21人
2014年 2月9日	舛添 要一	65	自民党・公明党	2,112,980	46.14%	16人
2012年 12月16日	猪瀬 直樹	66	無所属	4,338,940	62.60%	9人
2011年 4月10日	石原慎太郎	78	無所属	2,615,120	57.80%	11人
2007年 4月8日	石原慎太郎	74	無所属	2,811,490	54.35%	14人
2003年 4月13日	石原慎太郎	70	無所属	3,087,190	44.94%	5人